男女共同参画社会を考える〈パートⅠ〉

「男女共同参画に関する市民の意識及び実態調査」報告

男女が互いに人権を尊重しつつその能力を十分に発揮できる社会を実現するため「男女共同参画社会基本法」が制定されて10年になります。

山形市では平成13年2月「いきいき山形男女共同参画プラン」を策定し、これまで様々な取り組みを進めてきました。

今年度「男女共同参画に関する市民の意識及び実態調査」を実施しました。その調査結果の一部をご紹介します。

（＊比較しているグラフは前回調査平成17年のものになります。）

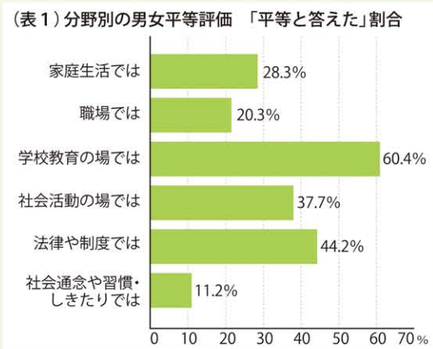
男性の育児参加も増えてきている…
【平成21年度男女共同参画に関する作品「写真の部：最優秀賞」より】

男女平等についての意識

「男女の立場は平等か」分野別に尋ねたところ、「学校教育の場」では6割以上と高く、男女平等は浸透してきているようです。（表1）「男女平等といっても、男子・女子それぞれの特性にふさわしい教育をすべきである」と思っている人も約5割と高くなっています。

平等意識が低かったのは「社会通念や慣習・しきたり」で、次に「職場」となっています。

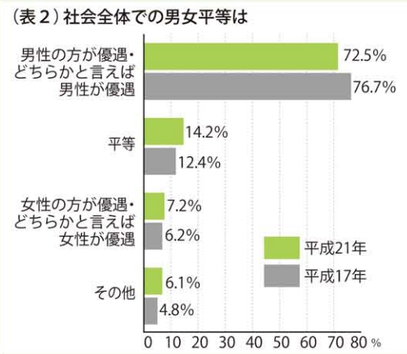
（表1）分野別の男女平等評価　「平等と答えた」割合



では、社会全体で見た場合はどうでしょうか。

「社会全体でみた場合の男女平等」は「男性が優遇されている」と思っている人は7割を超えています。それでも前回に比べると少しずつ平等と思う人の割合は上がってきています。（表2）

（表2）社会全体での男女平等は

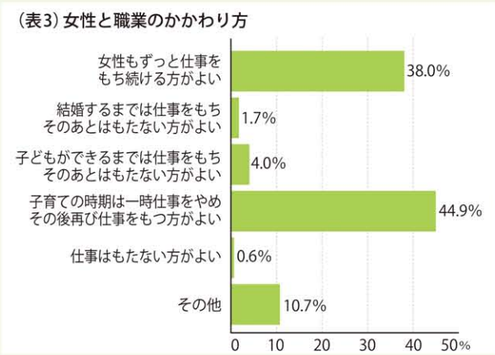


「男女が社会のあらゆる分野でより平等になるために重要だと思うこと」で1番に高かったのは、「家事・育児・介護などが十分に評価されること」でした。2番目は、「社会的なしきたりや古くからの慣習が改善されること」、3番目は「就職・昇進・賃金など職業上の男女不平等をなくすこと」、4番目は「女性が認識を改め、もっと自覚と責任意識をもつこと」となりました。

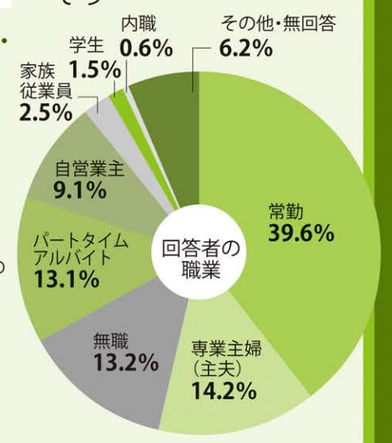
就労についての意識

「女性が仕事をもつことをどのように考えているか」尋ねました。「女性もずっと仕事をもち続ける方がよい」38%、「結婚するまでは仕事をする」1.7%、「子どもができるまで」4%、「子育ての時期は一時仕事をやめてその後再び仕事をもつ」44.9%と、多くの人が生涯何らかの形で仕事をもった方がよい・もちたいと考えています。（表3）

（表3）女性と職業のかかわり方



【概要】
●調査対象
市内在住の20歳以上の男女3000人
無作為に抽出
●調査基準日
平成21年8月1日
●有効回収率54%
男女比
男43.4%　女54.7%

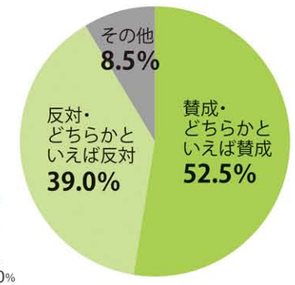


結婚や家庭生活についての意識

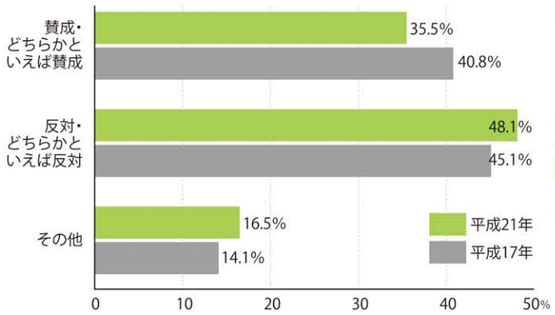
「結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい」という考えについては、賛成が約5割、反対は約4割と、賛成のほうが上回りました。（表4）

「夫は外で働き妻は家庭を守るべき」という性別役割分担意識からの考え方については、反対が全体的に少し増えました。（表5）

（表4）結婚は個人の自由だから結婚してもしなくてもどちらでもよい



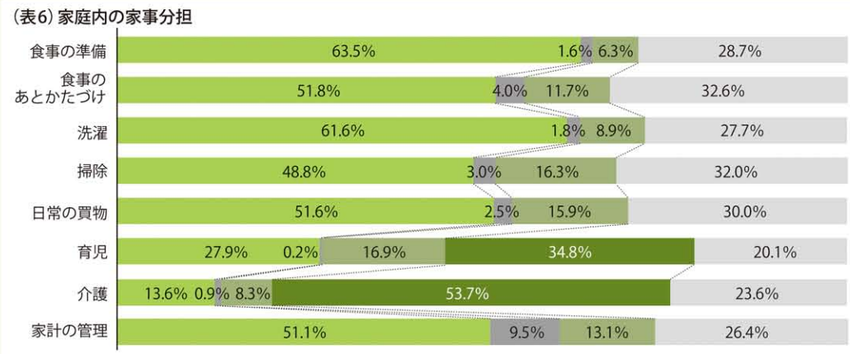
（表5）夫は外で働き妻は家庭を守るべき



家庭生活の実態

「家庭内の家事は主に誰がしているか」ではどの項目も妻の比重が高くなっています。（表6）

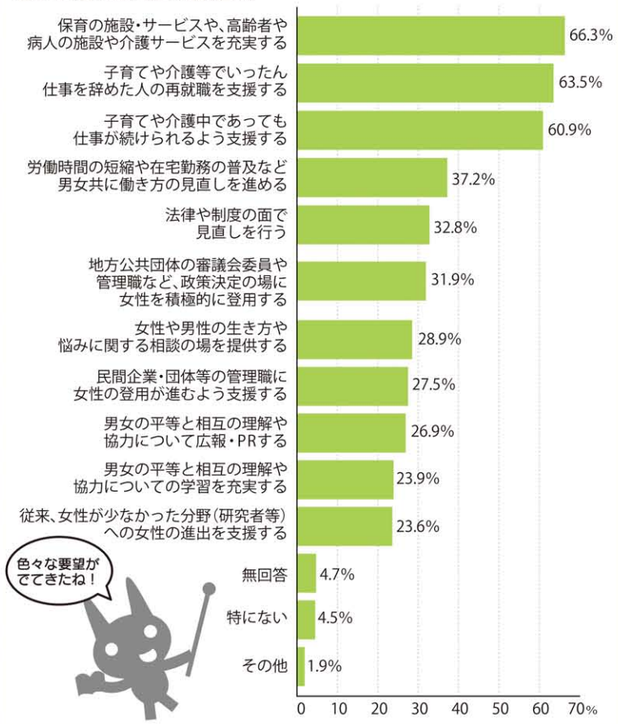
（表6）家庭内の家事分担



行政に望むもの

保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実することが1番にあげられました。（表7）

（表7）行政に望むこと（複数回答）



参画（さんかく）
単に仲間に加わるなどの「参加」とは違い、企画・運営・計画立案から携わるなど、決定に至るまでの相談や議論の場に主体的にかかわること。

ご要望ご意見（抜粋）

- 男女がいずれの面でも平等であることの確認。お互いが信頼することがスタートである。
- 男性には男性の得意分野、女性には女性の得意分野がある。お互いに特性を生かして社会に出られるようにして欲しい。
- 女性ばかりでなく男性も頑張っていることをわかってほしいです。私のような「企業戦士」でも休日には精一杯家族サービスをしようとがんばっています。
- 30代の女性、共働きです。夫は家事をいっさいしません。手伝ってもらいたいのですが…。
- 夫婦ともに働かなければ生活が困難。働きながら子育てしやすい社会に。
- 市民の意識改革が重要だと考えます。
- もっと市報などでPRが必要。
- 夫婦がよく話し合い楽しく暮らす家族が増えて欲しい。

※アンケートにご協力頂きありがとうございました